



かみかわ町

議会だより

No. **80**

令和7年
12月1日発行

この町は あなたが住む町 つくる町 神川町議会

令和7年

9月

定例会

9月定例会決算特集…………… P.2~4

7名の議員が一般質問を行う…………… P.5~9

議会活動報告…………… P.9及びP.12



表紙の写真

冬の多宝塔



撮影

フォーカス友の会 小笠原 智宏さん

表紙シリーズ

町内の風景写真

かみかわ町議会だよりはユニバーサルデザインフォントを使用しています。

議会の傍聴について

第6回定例会は12月

4 日(木) [午前9時～ 一般質問] から

16 日(火) [午前9時～ 質疑・討論・採決等]
を予定しています。

感染症等の発生が確認された場合は、議会の傍聴人数を制限する場合がありますので、ご了承ください。



3 健康を守る

① 胃内視鏡(胃カメラ)検診を開始：61万円

胃カメラのメリットを生かし、胃の他食道、十二指腸を直接観察し、病変を早期発見することで、迅速な診断と適切な治療につなげる。



③ がん患者アピアランスケア事業：21万円

がん治療に伴うウィッグ又は乳房補正具のアピアランスケア用品の助成。



② 産後ケア事業：27万円

出産後1年以内の母子を対象にした、宿泊型・日帰り型等のケア事業が新たに実施され、15件の利用実績となる。

出典：「母子保健施策の動向について」厚労省

4 持続可能な公共施設の整備

① 旧神泉総合支所及び旧ステラ神泉解体工事：1億254万円

全ての機能は新神泉総合支所に集約。



② B & G海洋センタープール跡地利用事業：8,585万円

町民の健康増進を図る新たな施設整備を行う。芝生広場、健康遊具、テニスコート、バスケットコート2面(3×3コート)を整備し無料で利用可能。



町の予算がきちんと執行されたか、慎重審議し、全ての会計決算を認定しました。
そのなかで、議会が注目した事業を紹介します。

4つの視点で決算を振り返ります。

1 子育て環境の充実

① 認定こども園の実施設計：

3,177万円

青柳保育所と神川幼稚園を統合した「幼保連携型認定こども園」の実施設計を行った。

② 青柳・渡瀬小学校統合事業：

①320万円

「子どもの未来をひらく新たな学校づくり(小中一貫校を目指す)」の第1段階となる。両小学校の交流事業、渡瀬小の移転業務及び閉校記念誌の作成を行った。



②904万円

スクールバスの購入。



③ 不登校対策事業：261万円

- ・校内教育支援センター（ステップアップルーム）の開室
- ・心の健康観察の実施



2 地域公共交通(移動手段)の確保

① デマンド交通実証実験を開始：

957万円

交通空白地における新たな交通手段として事業を開始。令和7年1月から3月まで、登録者451人、乗車件数180件の利用状況となる。



町に入ってきたお金
63億536万円

国・県支出金
9億5,476万円
(15%)

町で得たお金

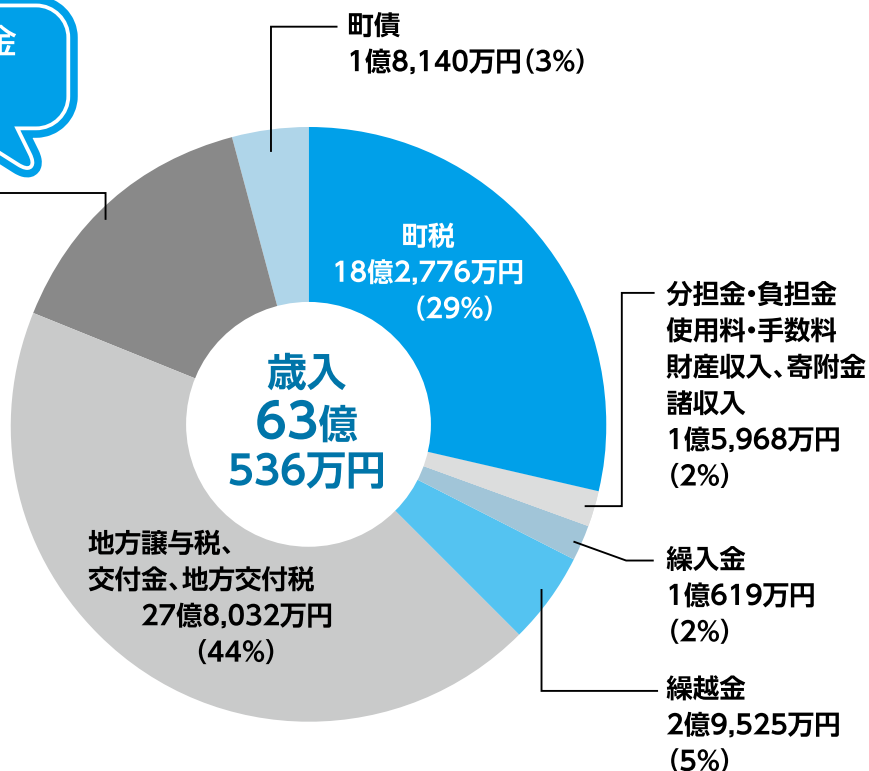
- 町税
- 分担金、負担金
- 使用料、手数料
- 財産収入 ●寄附金
- 諸収入
- 繰入金 ●繰越金

国や県からもらったお金

- 地方譲与税
- 交付金 ●地方交付税
- 国・県支出金

借金

- 町債



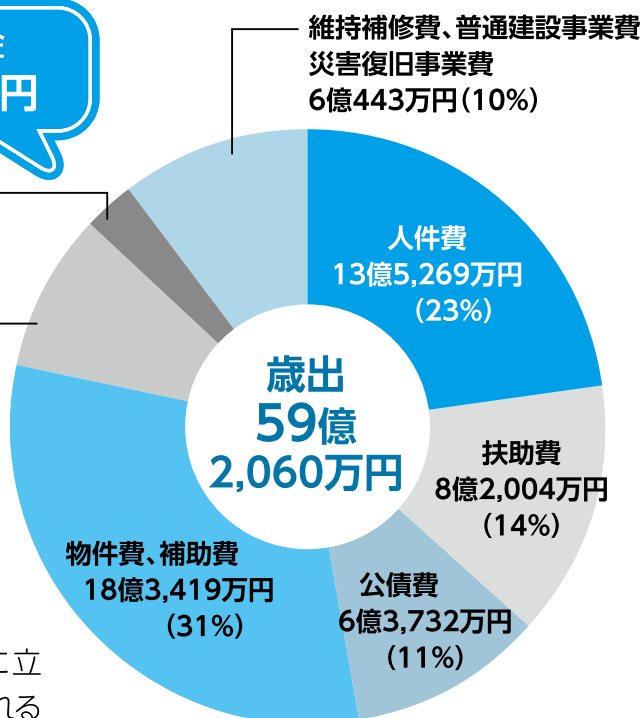
町が使ったお金
59億2,060万円

積立金
1億6,271万円
(3%)

繰出金
5億874万円
(8%)



- 神川町議会では、今後も中・長期的な視点に立ち、神川町にとって効果的な予算執行が行われるように、計画性・効率性・説明責任の3要素を意識し決算のみならず、当初予算作成の段階からチェック機能を強化していきます。



※()内は歳入・歳出に占める割合



町政を問う ～ 一般質問 ～

どの質問に興味がありますか？

P.9	P.8	P.8	P.7	P.7	P.7	P.7	P.7	P.6	P.6	P.6
公共料金（水道料）	異常気象に伴う集中豪雨対策	児童・生徒の通学荷物軽減に関する取組み	町内小中学校における英語検定受講料の助成	継続的な町づくりの推進	図書事業（追跡質問）	農業施策	移住・定住施策	4年間の町政運営および今後	子供たちの安心・安全	地域活性化

定例会の概要

令和7年第5回定例会は、9月3日から17日までの15日間の会期で開かれ、町政に対する「一般質問（※1）」の他、町長から提案された令和6年度一般会計及び特別会計の歳入歳出決算の認定8件をはじめ、令和7年度一般会計及び特別会計の補正予算7件、報告2件、条例改正6件を審議・可決しました。

（議案一覧及び審議結果は10ページ以降をご覧ください。）

「一般質問」とは（※1）

議員が町の施策、将来展望等の説明を町長などに求め、適切な町政運営を行っているかチェックするものです。

一般質問の全文は、議会事務局の会議録で閲覧することが出来ます。
また、町ホームページの神川町議会からも閲覧できます。





柴崎 愛子 議員

Q 地域活性化について

渡瀬小学校跡地利用について

地域住民からの意見にオートキャンプ場としての跡地利用案があるが、この利用案については現状でも利用環境（上里スマートインターから近く、民間温泉施設に徒歩5分、スーパードまで1分、校庭には遊具・トイレ・水道・街灯）は整っているため、この利用環境と集客実績のある地元温泉企業の知恵も借り、キャンプ場設置による地域活性化に繋げてはどうか、町の考えを伺う。

A 町長答弁

地元温泉施設と協力し、跡地のオートキャンプ場としての活用は、観光客誘致や地域活性化にも繋がる有効な手段の1つと考えられる。現在は暫定活用期間のため、本活用に向け、今後意見募集や情報収集を行い、今回の提案内容も含めた様々な

可能性を模索していく。

Q 子供たちの安心・安全について

小学校に冷水機の設置について
近年の暑さは厳しく、小学生が毎日持参する水筒は下校時までもたないと考える。一方、中学校では、2003年に冷水機が各階及び体育館に設置されている。水分補給はストレス軽減や集中力を高める効果もあると言われている。中学校においては、この冷水に元気を貰っている。なぜ、小学校に冷水機が無いのか？子供たちの安心・安全のためにも水筒に補充型の冷水機の設置が必要と考える。

A 教育長答弁

水分補給は児童生徒の熱中症対策としても重要だと考えている。各小学校では、水筒補充を既存の水道水や保健室の製氷機で水を補充するなどの対応をしている。小学校への冷水機設置については、設置に係る費用や維持管理などの負担も総合的に勘案し検討している。



※転載等禁止画像



野口 弘吉 議員

Q 4年間の町政運営および今後について

一期目の総括と今後の決意について

令和4年2月の櫻澤町政スタート以降3年7か月が経過した。新型コロナウイルス感染症対策から始まり、その後のまちづくり再始動、また、記憶に新しいところでは令和6年4月に人口戦略会議による消滅可能性自治体への指定等から推測する課題等あるなか、町長として町政運営を担ってきた1期目の総括・課題について、加えて選挙公約に掲げた内容等を踏まえ、以下の4点および今後の進退について伺う、

- 1、人口増加について
- 2、若者に魅力あるまちづくり
- 3、町民参加のまちづくり
- 4、高齢化対策について

A 町長答弁

就任当時のコロナウイルス感染症については、人命第一の方針で対策を講じてきた。また質問項目については、

- 1、人口増加を目指し県内で先駆けて給食費無償化を実施
 - 2、魅力あるまちづくりを目指し総合支所を拠点として観光振興を強化
 - 3、町民参加を目指し、まちづくり座談会新設
 - 4、高齢者対策と移動手段の確保のためデマンド型乗り合い交通を開始等、
- 町民が安心安全に暮らすことができるような様々な施策を推進してきた。一方で、各項目において今後、解決すべき課題も山積している。

この課題解決のためにも、引き続き町政運営に携わっていく覚悟でいる。





図:特徴的なフェーズの例

出典:「地方への人の流れの創出」
総務省

町の魅力発信や、空家の利活用推進等を行う移住定住施策に特化した地域おこし協力隊や広報大使の活用も視野に入れながら、効果的な施策について研究・検討する。

A 町長答弁

Q 移住・定住施策に ついて

人口減少対策の1つの手段として、町において空家対策計画を早急に策定し、空家活用等で移住・定住促進に力を入れる考えはあるか伺う。



川浦 雅子 議員

Q 農業施策について

水田と米作りを守るために

米作りを守るためには、担い手による大規模化はもとより、地域の中小規模農家や新規就農者対策も重要となる。このような多様な農業者と農地保全に対する町の継続的支援について伺う。

A 町長答弁

高齢化等により米生産者は減少しているなか、町では担い手への集約化強化をはじめ、レンタル農機紹介、作業受託の斡旋等の対応を行う。また、米以外の取組みでは農業機械購入補助や農業技術支援を行っている。

Q 図書事業について (追跡質問)

司書配置を

学校図書室・町図書室に専任司書を配置し、読書推進や図書室の役割を引出すための取組みについて伺う。

A 教育長答弁

町に専任司書はいないが、様々な工夫により図書の貸出しはここ数年増加している。ネット社会だからこそ、知識を深め豊かな心を育む読書推進は重要と考えている、そのため今後も町の読書環境の整備や、読書活動の啓発を継続し、効果的な取組みを模索する。

Q 継続的な町づくりの 推進について

町づくりの推進状況、及び今後の展望(ビジョン)は?

櫻澤町長が町政を担って進めてきた町づくりの推進が節目を迎えようとしているが、「消滅可能性自治体」に該当してしまうなど住民が不安を抱える中、重要施策の達成度をはじめとした4年間の町づくりの進捗をどう自己評価・総括しているか、加えて今後の展望(ビジョン)についても伺う。

A 町長答弁

新型コロナウイルス感染症対応をはじめ、厳しい社会経済情勢の中で、町民の皆様の生活を守ることに全力を注ぎ、公約に掲げた施策を一步一步取り組んできた。

教育環境が充実し、安心安全で暮らしやすい地域社会を築き上げることで、次の世代へと誇



新井 太一 議員

れる持続可能なまちづくりを実現していく。

Q 町内小中学校における英語 検定受講料の助成について

受験機会の拡大を!

現代社会では、国際力や生産性の向上を目的にグローバル化が急速に進んでいる。英語検定は入試優遇や、単位認定、就職時の優遇措置のある資格試験であるため全国の自治体においても助成金制度が広がっている。受験機会を確保し、公平な進学や、就職を支援するためにも、町内小中学生を対象に英語検定受講料の助成が必要であるが、町の考えを伺う。

A 教育長答弁

町では令和4年度からESG、IBAという2種類の英語テストを実施し児童生徒の学習到達度を客観的な指標で測り、英語力の評価や、英語授業改善にも役立てている。これらは全額町負担しているため、実際の英語検定受講料の助成については慎重に検討したい。





剣持 真菜美 議員

Q 児童・生徒の通学荷物軽減に関する取組みについて

取組みの現状と検証について

近年、児童・生徒の通学荷物の多さが全国的に問題視されている。過重な荷物は、健康面や安全面への影響が懸念されるほか、通学時の心理的負担にもつながる。町としての荷物軽減に向けた方針を以下の4点に沿って伺う。

- (1) 取組みの現状認識
- (2) 児童・生徒への意識調査
- (3) ジャージ登校の開始時期見直し
- (4) 教科書等の持ち帰りルール検証



A 教育長答弁

町としても、過重な通学荷物は健康・安全・心理面に影響する重要課題と認識している。項目毎の回答としては、

- (1) 学校では主要教科以外は置き勉を認め、保護者とも連携し軽減に努めている。
- (2) 意識調査は未実施だが必要性を認識し検討課題とする。
- (3) 服装は温暖化を考慮しジャージ登校開始を柔軟に前倒し、教室でのオンライン朝会等で配慮。
- (4) 各学校がルールを決めて周知最後に、家庭学習に必要な教材確保と負担軽減との両立を図り、実態に応じ改善を進める。



四方田 繁男 議員

Q 異常気象に伴う集中豪雨対策について

2次被害の防止と町民の安全確保

近年、異常気象による集中豪雨が多発し、2019年の台風19号では町内でも土砂崩れや河川の増水が確認された。このような状況を踏まえ2次被害の防止と町民の安全確保を最優先に考える場合、氾濫のおそれのある河川沿いや土砂災害の危険性が高い傾斜地など、特に危険が予想される箇所へのライブカメラ設置が有効な手段となる。これにより早期避難の促進、関係機関との情報共有や復旧活動の迅速化、消防団の見回り負担の軽減、住民が危険な箇所付近づくことを防ぎ、安全確保につながると考えた。今後の町の考えを伺う。

A 町長答弁

ライブカメラの設置は、災害リスクの高い場所では現地の状況を確認する手段として有効である。特に河川にあっては、台風などの豪雨時に現地の状況を誰もが見守るネット上で閲覧することができ、増水の危険性を視覚的に理解し、より迅速で安全な避難行動を促すことができるかと考えている。なお、設置や維持に係る費負担も軽視できないとともに、課題もあり町内危険箇所へのライブカメラの設置については、今すぐ進めるのではなく、慎重に検討して行く。



出典：「いのちと暮らしを守る防災・減災」国土交通省

一般質問

高い水道料何とかして！
今年に入り、本庄市、上里町、美里町では水道設備環境の安全・維持管理に必要として水道料改定の報道があった、4月1日現在「本庄市長コラムより」、口径13mm、月間使用量20m³の条件で水道料金を試算すると、神川町3,190円、本庄市2,739円、上里・美里町はそれ以下の状況、神川町の3千円台は非常に高い料金に映る。環境の変わらないこの県北地域でこの差は何なのか、また神川町には災害に弱い石綿管が多く残っており更新費用も懸念される、将来発生する費用を含めどの様に水道事業を運営し他の自治体と同様な水道料金でサービスを維持していくのか伺う。



Q 公共料金について



坂本 貴佳 議員

高い水道料何とかして！

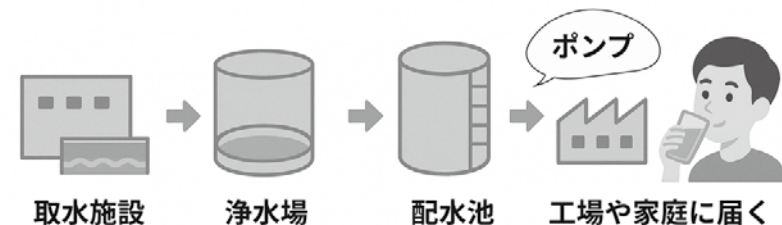
今年に入り、本庄市、上里町、美里町では水道設備環境の安全・維持管理に必要として水道料改定の報道があった、4月1日現在「本庄市長コラムより」、口径13mm、月間使用量20m³の条件で水道料金を試算すると、神川町3,190円、本庄市2,739円、上里・美里町はそれ以下の状況、神川町の3千円台は非常に高い料金に映る。環境の変わらないこの県北地域でこの差は何なのか、また神川町には災害に弱い石綿管が多く残っており更新費用も懸念される、将来発生する費用を含めどの様に水道事業を運営し他の自治体と同様な水道料金でサービスを維持していくのか伺う。

A 町長答弁

水道料金が高い一因は、有収水量1m³当りの給水原価が高く（自己水源取水量が少なく・県水受水比率が高く・浄水場等の施設が多い）、本庄市130円、上里町101円、美里町150円、神川町176円です。

水道料金は地方公営企業法に公正妥当で、健全な運営を確保することが規定されており、神川町水道料金等審議会にて審議・改定している。

また、災害発生時の継続的な水道水供給の為に、老朽化している石綿管を計画的に布設替えするなど、適正かつ安定的な水道事業運営を進めて行く。



活動報告

児玉郡町議会議員 前期研修会



令和7年7月23日(水)に、令和7年度児玉郡町議会議員前期研修会が、講師に自治体広報広聴研究所代表理事 金井氏を迎え、「議会広報のあり方を考える」をテーマに講演を頂いた。このなかで、住民に伝わる広報を目指し、広報紙の読者を意識した企画・編集の重要性を学びました。

役場前イルミネーション装飾作業

令和7年9月14日(日)神川町イルミネーション実行委員会による飾りつけ作業に参加しました。

「神川ハッピーハロウィン2025」が昨年以上の盛り上がり期待しながらの設営となりました。



● ● ● 9月定例会議案一覧及び審議結果(条例・補正予算等) ● ● ●

議 案 名 等 と 主 な 内 容		審議結果
町 長 提 出 議 案	神川町職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例の一部を改正する条例 人事院規則の一部改正に伴い、所要の改正を行う。	○
	神川町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例 人事院規則の一部改正に伴い、所要の改正を行う。	○
	神川町重度心身障害者医療費支給に関する条例の一部を改正する条例 埼玉県の関連補助金交付要綱の一部改正に伴い、所要の改正を行う。	○
	神川町火入れに関する条例の一部を改正する条例 用語及び事項の整理に伴い、所要の改正を行う。	○
	神川町町長等の損害賠償責任の一部の免責に関する条例の一部を改正する条例 地方自治法施行令の一部改正に伴い、所要の改正を行う。	○
	神川町の議会の議員及び長の選挙における選挙運動用自動車の使用等の公費負担に関する条例の一部を改正する条例 公職選挙法施行令の一部改正に伴い、所要の改正を行う。	○
	令和7年度神川町一般会計補正予算(第2号) 河川維持費・給食センター運営費並びに観光総務費などを増額。歳入歳出各2億1,233万円9千円を増額し、補正後総額を歳入歳出各72億7,294万3千円とする。	○
	令和7年度神川町国民健康保険特別会計補正予算(第1号) 子ども・子育て支援金制度導入に係るシステム改修費等の増額。歳入歳出各3,352万8千円を増額し、補正後総額を歳入歳出各15億541万2千円とする。	○
	令和7年度神川町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号) 歳入歳出各336万6千円を増額し、補正後総額を歳入歳出各1億8,441万3千円とする。	○
	令和7年度神川町介護保険特別会計補正予算(第1号) 令和6年度の決算額確定に伴い国庫支出金等の精算を行う。	○
	令和7年度神川町営バス事業特別会計補正予算(第1号) 委託料80万円の増額を行い、補正後総額を歳入歳出各2,789万7千円とする。	○

令和7年度神川町観光事業特別会計補正予算(第1号)
城峯公園事業費の工事請負費の増額。歳入歳出各434万2千円を増額し、補正後総額を歳入歳出各2,134万5千円とする。

令和7年度神川町水道事業会計補正予算(第1号)
水道事業収益に34万8千円を増額し3億56万2千円とし、支出では39万1千円を増額し2億9,949万3千円とする。

※【審議結果】○全員賛成(可決) △賛成多数(可決) ×賛成少数(否決)

9月定例会議案一覧及び審議結果（決算関係）

議案名等と主な内容		審議結果
町長提出議案	令和6年度神川町一般会計歳入歳出決算の認定について 歳入総額 63 億 536 万 788 円、歳出総額 59 億 2,059 万 8,272 円の決算を認定した。	△
	令和6年度神川町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について 歳入総額 15 億 3,944 万 5,516 円、歳出総額 15 億 815 万 781 円の決算を認定した。	△
	令和6年度神川町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について 歳入総額 1 億 8,466 万 9,813 円、歳出総額 1 億 7,048 万 6,570 円の決算を認定した。	△
	令和6年度神川町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について 歳入総額 11 億 7,897 万 3,618 円、歳出総額 11 億 4,863 万 1,653 円の決算を認定した。	△
	令和6年度神川町営バス事業特別会計歳入歳出決算の認定について 歳入総額 1,118 万 5,194 円、歳出総額 1,041 万 2,517 円の決算を認定した。	○
	令和6年度神川町観光事業特別会計歳入歳出決算の認定について 歳入総額 1,390 万 1,460 円、歳出総額 1,357 万 744 円の決算を認定した。	○
	令和6年度神川町水道事業会計決算の認定及び剰余金の処分について 事業収益が 3 億 333 万 3,094 円、総費用が 2 億 8,802 万 2,856 円、資本的収入が 814 万円、支出が 1 億 2,131 万 1,384 円の決算を認定した。	△
	令和6年度神川町下水道事業会計決算の認定及び剰余金の処分について 事業収益が 1 億 4,428 万 8,486 円、総費用が 1 億 1,482 万 5,003 円、資本的収入が 2,582 万 4,000 円、支出が 9,122 万 4,257 円の決算を認定した。	○
	令和6年度神川町健全化判断比率について	報告のみ
	令和6年度神川町資金不足比率について	報告のみ

※【審議結果】○全員賛成（可決） △賛成多数（可決） ×賛成少数（否決）

各議員の賛否の状況（全員賛成の議案等を除く）

議案名等と各議員の賛否 賛成：○ 反対：×		剣持真菜美	新井 太一	四方田繁男	福島 康弘	川浦 雅子	野口 弘吉	坂本 貴佳	堀川 光宣	赤羽奈保子	柴崎 愛子	審議結果
町長提出議案	令和6年度神川町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	×	○	○	○	-	-	△
	令和6年度神川町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	×	○	○	○	-	-	△
	令和6年度神川町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	×	○	○	○	-	-	△
	令和6年度神川町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	×	○	○	○	-	-	△
	令和6年度神川町水道事業会計決算の認定及び剰余金の処分について	○	○	○	○	×	○	○	○	-	-	△

※－ 赤羽議長（議事進行）は採決に加わりません。－ 柴崎愛子議員、療養のため欠席です。

※【審議結果】○全員賛成（可決） △賛成多数（可決） ×賛成少数（否決）

議 会 活 動 報 告

総務経済常任委員会協議会



令和7年9月9日(火)、執行部から経済観光課の出席を求め「神川町における地域農業の現状及び課題」について協議会を開催しました。

神川町においても、農業従事者の高齢化と後継者不足が顕著になってきており、農業を次世代に引き継いでいくために様々な手段を講じているが、画期的な打開策には至っていない説明を受けました。

議会としては関係機関に対して農業支援強化の訴えを継続していきます。

文教厚生常任委員会協議会

令和7年9月10日(水)、執行部から防災環境課の出席を求め「増大する災害リスク」について協議会を開催しました。

神川町地域防災計画や国のガイドライン等の最新情報の説明を受けるとともに「線状降水帯」、「南海トラフ地震」などの災害に備え住民の防災意識向上や住民に対する情報伝達手段などについて協議し、災害に強い安全な町づくりを要望しました。



出典：「災害時に命を守る一人ひとりの防災対策」政府広報オンライン



スマホで議会！

スマホでQRコードを読み込むと「町HPから神川町議会のページ」が閲覧できます。

3月定例会は、3月4日(水)から開催予定です。



編集後記

今年も地域の皆さんに支えられながら、議会活動が続けることができました。

日々の暮らしの中の気づきや会話が、まちづくりの力になると感じています。

寒さ厳しい季節ですが、どうぞお身体を大切に過ごしてください。

これから皆さんと共に、よりよい神川町を育てていきます。

(剣持真菜美)

議会だより編集委員会

- ・委員長 新井 太一
- ・副委員長 剣持真菜美
- ・編集委員 野口 弘吉
- 福島 康弘
- 赤羽奈保子

